

## 菜の花に包まれた曲川橋 (佐世保市吉井町)

曲川橋は1933年(S8)にかけられたアーチ型石橋です。

吉井エコツーリズム研究会が、その研究推進の一環としてこの橋の周辺の整備を始めたのは昨年の9月でした。それまで、個人のボランティア活動によって上・下流域の草払いが行われていましたが、9月23日には、研究会の会員5名と県立大学生24名によって、荒地の除草等が行なわれました。

10月には、市の補助(街づくり景観保護活動)を得て、機械を導入。更に安全柵の設置等々が進みました。同時に、念願だった菜の花の種が蒔かれ、地域の方々からも、「きれいになったね」などの声を掛けていただけようになりました。

そうした地域の方から、「昔このあたりは桜町と呼ばれていた」「蛍もたくさん飛んでいた」などのお話が聞け、桜も植樹しました。「陽光」というピンクの濃い桜です。蛍を再生するために、川岸の樹木の整理もしました。近い将来、地域の方々が花見や蛍見学に集う光景が浮かんで、楽しい作業でした。

次第に育ってくる苗、春季の光景が楽しみになり、ついに吉井エコツアーの第1回となるイベントの計画を進めました。それが「菜の花と石の橋と」フォトコンテスト・スケッチ大会でした。



### 「菜の花と石の橋と」

フォトコンテスト(2月～3月)  
スケッチ大会(3月29日)



下流側



上流側

3月の半ば、曲川橋周辺は菜の花の眩しい色と香りに包まれました。スケッチ大会当日の3月29日には、蛍光グリーンのウインドブレーカーに身を包んだ14名の実行委員が早朝から集まり、たて看板の設置や受付の準備等を行いました。

このイベントでは、写真の部4点、絵画中学生以下の部3点、同一般の部3点の応募を得ることができました(4月1日現在)。エコツーリズムとしては「参加者をどのように確保するか」といった基本的な課題がのこりました。更に協議を深め、特に地域の協力を求めていくことの重要性を再確認しました。



写真左 参加者とテレビの取材  
写真中 街角のたて看板  
写真右 受付風景

